

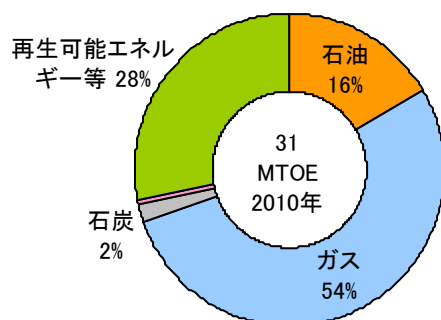
1-19 バングラディッシュ

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 31 百万 TOE (日本の 0.07 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2010年) : 0.21TOE (日本の 0.06 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 83%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 53.0 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 4.6%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 0.36CO₂ 換算 ton (日本の 4.0%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2011年末) : 天然ガス 17.8 年

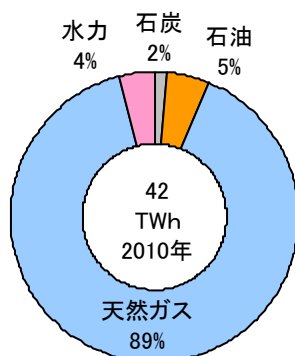
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Bangladesh

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Bangladesh

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- Ministry of Power, Energy and Mineral Resources (MOPEMR) が担当。

(2) 基本政策

- 天然ガスおよび石炭資源が比較的豊富であり、これまでは天然ガスがエネルギー供給において重要な役割を果たしてきた。しかし、近年の発電用や産業用を中心としたエネルギー需要の拡大によって、国内の天然ガス需要を国内生産で賄うことが出来なくなっている。そのため、天然ガス開発の促進によって供給量を維持するとともに、LNG 輸入に向けたインフラの整備、石炭など代替エネルギーの利用拡大を目指している。

(3) 最近の動向

- 2012年5月27日に科学大臣が「Bangladesh Atomic Energy Control Bill 2012」を国会に提出し、同31日に可決された。法案は、平和目的の原子力技術の利用を監督する Bangladesh Atomic Energy Regulatory Authority (BAERA) を設立するためのもの。バングラディッシュは、初の原子力発電所 (1,000MW×2基) を2013年に着工することを目指している。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2011年2月、丸紅は EGCB (Electricity Generation Company of Bangladesh) 社向けに、410MWの天然ガス CCGT 発電設備建設一式を単独受注した。日本政府の円借款事業で、2013年7月の完工を目指す。丸紅は、現在バングラディッシュにおいて、Haripur100MW ガスタービン火力発電所 2、3号機リハビリ事業、及び Karnaphuli 水力発電所 4、5号機のリハビリ事業も遂行中。
- 2012年5月に岡田副総理 (当時) がバングラディッシュを訪問し、政府要人と会談し、経済協力の強化や地域情勢に関する議論を実施。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー総供給量	31	MTOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.21	T0E/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.38	T0E/千\$
(4)	エネルギー自給率	83	%
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	53.0	百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	0.36	CO ₂ 換算 ton /人
(7)	エネルギー源別構成率	石炭	2 %
		石油	16 %
		ガス	53 %
		原子力	0 %
		水力	0 %
		再生可能エネルギー等	28 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	17	%
(9)	石油の輸入依存度	99	%
(10)	輸入原油の中東依存度	N/A	%
(11)	原油輸入先	第1位	N/A
		第2位	N/A
		第3位	N/A

(出所) (1)～(4) および (7)～(9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012、
(5)～(6) は IEA CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012、